

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・近隣の百貨店の統合及び大型改装があり、消費が刺激された結果、販売量が増加している。特にセール品や割引・ポイントアップ施策が好調である。また高額商品についても、一部の富裕客に限り販売が好調である。	
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・4月は前年より若干雨の日が多かったものの、休日やポイントデー、第1週目の花見時期やゴールデンウィーク中は天候に恵まれたため、花見・行楽商材や春商材、帰省時のハレの日商材等を購入する客が多かった。来客数だけでなく、客単価も伸長した。	
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・先月に引き続き、たばこ販売のtaspoカード導入によりコンビニの来客数が伸びている。来客数は減る状況になく、売上も好調である。	
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・微増ではあるが売上は3か月前よりも伸張している。目に見えて景気が良くなっているとは言い難いが、単価の上昇等から判断すると、やや良くなっている。	
		ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・客は50歳を超えている人が多いが、今月は20代後半から30代前半の客が増えた。客の年齢層の低下で、前向きな材料が増えた。	
	変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は増えているが購買につながっておらず、売上が伸びない。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・近隣に商業施設が開業し、それに伴う近隣の店舗のセールで価格破壊が起こっている。そのため商店街の来客数、売上が減少している。
			百貨店（売場主任）	お客様の様子	・新しい店舗なので来客数が多く、売上は堅調である。しかし、傾向は既存店と変わらず、傘、ハンカチ、帽子等デイリー性の高い物は堅調であるが、アクセサリーや宝飾は不調である。
			百貨店（営業担当）	お客様の様子	・これまで前年実績を確保していたクレジットカードでの売上も前年に届かず、バーゲンの売上及び売上シェアも前年割れとなっている。しかし、客は粗品付ダイレクトメールには敏感に反応しており、それによる売上、来客数、レジ客数、買上単価共に伸張している。また、お得意様店外催事は買上単価が上昇しており、買物の二極化がより鮮明になった。
			百貨店（売場担当）	販売量の動き	・3か月前とほとんど変わらず、悪い動きが続いている。特に紳士部門、婦人ミセスが悪い。年配の方の買い控えがみられ、以前のようなまとめ買いが少なくなっている。全体的には単価ダウンの傾向にあり、来客数は良いが売上が悪いという状況が昨年9月より続いている。
			百貨店（営業推進担当）	お客様の様子	・売上を支えてきたシニア層（60代以上）の購買意欲の低下が顕著である。
			百貨店（企画）	来客数の動き	・来客数、買上客数が依然として減少傾向である。しかしながら、来客数については減少幅が小さくなっており、また客単価は前年を上回る等、わずかではあるが好転の兆しもみられる。
			スーパー（総務担当）	お客様の様子	・相変わらず衣料品、住居用品については前年割れが続いている。唯一食品が前年実績をクリアしているが、売上の伸びは思わしくない。客は必要最小限のものしか買わない傾向にある。
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・本部の販売促進もあり単価が若干上向くこともあったが、前年に比べ来客数はそれほど伸びておらず、客単価は若干減っている。	
		衣料品専門店	販売量の動き	・客は欲しいものがあっても色々な不安があり、我慢しているようである。	
	衣料品専門店（店員）	単価の動き	・4月は正価品販売の時期の真っ最中だが、ここ最近、風が強い日が多かったからか、ようやく春物が動き出した。正価品は値ごろ感があるものが売れ、高くても良い物にはなかなか財布のひもが緩まない。		

家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・最近家電では液晶テレビの売上が上がっていたが、今月ぐらいからやや停滞している。理由はよくわからないが、状況としては良くない。	
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販促のために様々な仕掛けを行っている。月1回程度のイベントには多くの客が訪れるが、来客数の多さがそのまま販売につながる気配はなく、このところ販売額は目標を常に下回っている。	
住関連専門店（経営者）	それ以外	・ガソリン暫定税率や高齢者の医療制度等の問題から、消費者は物価や老後の心配で耐久消費財である置き家具に目が向かないと思っていたが、少ない来客数の割に成約率は良かった。	
その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	販売量の動き	・前年の販売量とほぼ同じ水準にある。春に入り売上増加の傾向にあるが、コーヒー業界は仕入コストが若干上がっており、売価に影響するため、横ばいという状況である。	
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・4月初旬より燃料油の価格が下がったことでガソリン等を購入する客が増加した。暫定税率復活を見越した4月末の仮需要が予想される。	
高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・例年であればかなりある新入社員の歓迎会が、今月はほとんどなかった。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・常連客が個人での来店となり、グループでの来店が減っている。また週末営業の活気が感じられない。	
その他飲食 [居酒屋] （店長）	単価の動き	・4年ぶりの地方選挙だったため、夜の街に客の姿が少なく、来客数が減少した。	
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・全体の予算は何とか達成したが、前年を大きく下回っている。特に宿泊部門、一般宴会が大きく下回っている。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの日並びの悪さもあるが、旅行需要は全体的に低調である。ガソリン値下げによる近場の宿泊プランへの効果は少ない。海外旅行は中国が減り、台湾が増えた。	
旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・円高の影響が法人需要に徐々に現れてきている。原油高が海外旅行を控えさせる大きな要因となっている。	
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は特にゴルフ、会社訪問等の客が少なかった。昼夜共に団体客が多く、歓送迎会が終わると、客の動きは悲惨なものであった。	
観光名所（職員）	来客数の動き	・景気は良くなっていない。ただし、観光施設は、NHK大河ドラマの影響から来客数が前年比40%程度増えている。個人客、団体客共に増えているが、特に個人客の増加が目立つ。	
美容室（店長）	お客様の様子	・連休は、例年なら結婚式等で着付けの予約があるが、式場でヘアセットや着付けをする人が増えており、来客数が減少している。	
設計事務所（所長）	競争相手の様子	・今月は当社は少し仕事量が増えたが、友人は事務所をたたんでいる。プラスマイナスゼロという状況である。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・新聞などで良い話がなく、それを読んだ年配の女性たちが、買物に対して警戒している。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街への来客数が減っており、売上が上がらない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年4月になると商店街の客は増えるものだが、今年は来客数、客単価とも下落している。
	一般小売店 [鮮魚]（店員）	お客様の様子	・医療費等のお金が掛かるためか、高齢者の来店回数が減ったようである。客はなかなか買物をしてくれない。
	一般小売店 [茶]（販売・事務）	お客様の様子	・食料品が次から次に値上げされている。同業者もかなり値上げしたと聞いているが、当店では値上げせずにいたところ、結果的にかかなりの売上減少になった。今までは購入目的が無い時でも来店し、ついでに購入していた客も多かったが、それがみられなくなっている。
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・物価の高騰から商品の価格が上がり、客単価は上がった。ただし、来客数がかなり減少傾向にあるため、売上は前年割れである。

百貨店（売場担当）	単価の動き	・競合店が増え、来客数が減少している。さらに、このところの物価上昇が原因で販売量が確実に減っている。
百貨店（業務担当）	販売量の動き	・ガソリン暫定税率や高齢者の医療制度の報道等、生活者に対する負担増のニュースが流れるなか、消費者の購買欲はかなり減退している。バーゲンや価格訴求の商品に関しても、自分が必要なもの以外は興味を示さない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・社会保険、石油、穀物価格の上昇などに関するマスコミ報道の影響もあるせいか、酒に代表される嗜好性の強いものへの需要が落ち込み始めている。水産品や農産品も中国産輸入品のストップと飼料の高騰で仕入れ価格が上がり、全体需要を押し下げる現象が出始めている。しかし、今の時点では急激な販売量の落ち込みはみられないが、今後の消費の見通しは予断を許さない。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・原材料高騰による諸物価の値上げに伴い、特に食料品で客単価の下降が見受けられる。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・原価値上げに伴う売価値上がりによる販売数量の減少に加え、競合店の出店もあり、業界としては厳しい環境になっている。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・4月は、量販店は前年比105.3%、コンビニは同93.3%、ローカルスーパーは同110.7%となり、合計では同99.2%となった。販売量の動きが若干鈍かったが、価格改定があった分を差し引けば、ほぼ前年並みである。
衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・婦人服も子供服も、新入学用スーツの需要が終わったら、一気に売上が落ち込んだ。例年、4月は新学期用の子供服のまとめ買いが多いが、今年は単品での購入が目立った。婦人服も単価の安いものしか売れなかった。
家電量販店（店長）	単価の動き	・来客数、買上単価とも下がっているため、状況は悪くなっている。
観光型ホテル（営業担当）	お客様の様子	・シングルルームでの宿泊希望が多くなり、定員稼働率が下がってきている。また地元宴会は、マイカー利用で帰りは代行運転の利用が増える傾向にあり、駐車場と人材の確保が必要となっている。
都市型ホテル（総支配人）	単価の動き	・新規出店施設の低価格戦略の影響で、競合各社での価格競争が続いている。そのため、前年を下回る販売単価となる一方、経費は原油高騰の影響から高くなっており、利益を圧縮している。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は例年に比べて歓送迎会も大変少なく、夜の繁華街に人が少ない。昼の買物客も財布のひもが固く、買物する人自体も少ない。
タクシー運転手	お客様の様子	・客は、安い店で大量に買物しているようである。安い青果店には大量の買物客が殺到している。
タクシー運転手	お客様の様子	・タクシーの客は高齢者が多いが、物価が上がっているため、買物や病院にタクシーを使う人が少なくなった。夜飲みに行く人も少なくなり、タクシーの動きは本当に悪くなった。売上も大分下がっている。
通信会社（業務担当）	販売量の動き	・4月は携帯電話の新商品や格安商品等が少ないせいもあるが、平日、週末共に来客数が少ない。新規契約・買替えのいずれも前年を大きく下回っている。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3月の春休みも伸びなかった。個人旅行自体が前年を下回り、減少傾向にある。
競輪場（職員）	来客数の動き	・前年の同時期に比べ発売額が増加しているにもかかわらず、来客数の落ち込みが大きい。
競馬場（職員）	販売量の動き	・来客数は微増傾向にあるが、販売量の落ち込みが激しい。
設計事務所（所長）	来客数の動き	・電気、ガス等の値上がりで、客は建築を控えている。
悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	・ガソリンの値下げはあったが、高齢者の医療制度などの問題もあり、今後の不安が客の購買心にかなり影響している。小麦粉、トウモロコシの値上げから当社の味噌も値上げとなったため、かなり買い控えがみられる。果物などし好品関係もかなり落ちている。

	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客数は増えているが、客単価が低下している。特に3月から経済関係の問題が多く、新富裕層が全く動いていない。それに加えて百貨店のメインであるミセス・シニアの動きが止まっている。したがって、高額品の売行きが不振及びシーズントップのインポートブレタの動きが不振であり、かつてないほどの厳しさとなっている。	
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が前年比20～25%減少しており、高額品の販売が伸び悩んでいる。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・まとめ買いが減っており、客単価も下がっている。	
	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・ガソリンの暫定税率の問題や高齢者の医療制度の導入などで、客の不安材料が大きくなり、消費へ大きく影を落としている。一方で、環境問題、自然保護、エコへの意識の高まりが、新しい消費を生んでいる。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・原油高騰による単価の上昇で、必要なもの以外の買上点数が減っている。また、今後の物価上昇の懸念もあり、買物客の買い手が非常に慎重になっている。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は変わらないが、食料品の値上げ以降、客単価が95%くらいまで落ち込んでいる。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品の単価は2～3%上昇し、来客数も前年を上回っている一方、販売個数が減り、客単価は低下している。衣料品はアウター関連が紳士・婦人・子供共にまとめ買いが減り、食品と同様に節約志向が感じられる。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客は必要な物しか買わなくなっており、買物も最低限必要な物に限っている。しかも、ぎりぎりまで待って買っている状況である。買わない、というより買えないといった様子もみえてくる。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の買い控えムードは続行中である。ガソリンの一時値下げも、買い控えを止める力はない。	
	衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・ヤング、ミセス、婦人服、男性衣料品のいずれも前年割れとなっている。衣料品のバーゲンでも来客数が少なく、販売単価も下がっている。衣料品の売上の底が見えず、売上予算が組めない状況である。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・3か月前に比べ来客数、販売量が共に落ち込んでいる。家電販売については、3月はある程度盛り上がったが、4月は反動がきたのか、この地区ではぐんと落ち込んでいる。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新車購入目的での来店が少なく、サービス中心の来店になっている。	
	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・暫定税率問題による車検予約の減少とサブプライムローンの影響等で、先行きが不透明である。	
	その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・原油値上がりに関連する食料品等の値上げラッシュで、客の財布のひもは確実に固くなっている。客は、極力無駄な物や今必要ない物は買わないようになってきている。	
	高級レストラン（専務）	単価の動き	・鹿児島はNHK大河ドラマの効果で県外からも人が入ってきているが、客単価は安い。収入が増えず、消費は減っており、ますます悪くなっている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊者数、宴会件数共に大不振である。また、教師の飲酒運転逮捕により学校教職員の歓迎会等が自粛され、直近のキャンセルが続出した。加えて原材料費の高騰による収支の圧迫が、今後ますます増大する懸念がある。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中国産食品問題の影響から、国産志向が高まっている。特に冷凍食品メーカー向けの原材料は、従来になく引き合いが強くなっている。スーパー、居酒屋向け等も、行楽シーズンであることもあり、歓迎会等で順調な動きとなっている。
	変わらない	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・3、4月を通じて受注状況は非常に悪かったが、4月中旬からゴールデンウィーク前後で受注が多数入り、現在は前年並みの状況である。しかし、これは一時的なものであり、先は読めない。

	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・資材の値上がりから建設予定金額より見積金額が高くなり、予定金額に追いつかずなかなか契約に至らない。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は雑貨関係の受注量は悪かったが、6月から値上げになる紙の入出庫は多くなってきたので、その分が少し良かった。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・年商1億前後の中小企業で、設備資金もしくは運転資金等で既存借入金のある企業は、全般的に設備投資等のマインドが冷えこんでいる。結果として地域金融機関の貸出金も増加していない。
やや悪くなっている	繊維工業（営業担当）	それ以外	・同業者の廃業や倒産に加え、周囲では異業者の倒産も発生している。地方では、町単位でいいところと悪いところの偏りが出てきている状況である。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年、4月は転勤や入学などに関連して家具販売がお手盛であるが、今年は動きが鈍く、前年と比較すると20%以上落ち込んでいる。相次ぐ価格アップや先行きの不透明感から消費者の買い控えが多く、全体の景気感は確実にマイナスである。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いが少なくなっている。客先に訪問しても、今後2、3か月の見通しは全く立たないという冷え切った回答が出ている。
	輸送業（従業員）	競争相手の様子	・同業者の多くが3月の駆け込み需要の反動から4月は苦戦しており、月末になっても回復していない。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・食料品、日用雑貨等の生活用品の荷動きも悪くなってきた。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・原油をはじめとした素材価格の高騰により仕入コストが上昇しているが、コスト上昇分を価格転嫁できず、収益状況が厳しくなっている企業が増えている。
	新聞社（広告）	受注量や販売量の動き	・年度当初だが、広告主の出稿意欲が鈍化しており、売上が前年に比べ大きく減少した。
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	取引先の様子	・新年度に入ったが、取引先の設備投資計画は、どこも厳しい状況を乗り切るため慎重かつ抑制された計画が多く、引き合い案件も非常に少なくなっている。
悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月上旬より受注が落ち込んでいる。在庫の放出もできない状況で、市場が冷え込んでいる。政治情勢や諸物価の高騰により、消費が伸び悩んでいることが原因である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車関連の取引先の受注が全くない。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・ここ1か月でかなりの企業が倒産に追い込まれている。現状はかなり厳しい。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・酒類の販売量が減少しており、特に焼酎がマイナス傾向である。飲食店の売上不振、消費者の買い離れが続いている。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
変わらない	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・4月中旬に、製造関係、運輸、卸売等を中心とする管内企業10社ほどを対象に円高、資源高、原油高などの影響がどのように雇用に影響しているかという調査が行われた。前年10月の調査に比べ若干厳しくなったものの、雇用に及ぼす影響はまだないという状況だった。
	学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・採用側の求人意欲は今のところ衰えを感じさせない。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（経営者）	それ以外	・明るい材料がなく、弱者にとっては大変暮らしにくい状況である。団塊の世代の大量退職で企業の採用数が増えているところもあるが、長崎では製造業など一部の業種での話である。業種間の格差が顕著に出ている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・当社では、例年2～4月期は大幅に利益を出してきたが、今期は赤字で推移した。市場は前年比5%減で、当社も取扱件数は前年並みであったにもかかわらず5%減となった。諸経費が上がっているため、赤字幅が広がった。

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	求職者数の動き	・ 新卒者の定着率が上昇しており、いわゆる「第二新卒」に流れる人材が減少している。また偽装請負に端を発した大手製造メーカーの正社員化の流れを受けて、従来の転職者市場の動きが悪い。
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	周辺企業の様子	・ 諸物価の値上げやガソリン税の復活の報道などで、企業の生産動向や営業活動に影響が出ている。
	民間職業紹介機関 ( 社員 )	求人数の動き	・ 派遣求人への依頼で、後任不要のケースが増加している。取引先は、事務派遣の補充は社内の人事異動や直接雇用化、業務縮小で対応している。その結果、3月末に派遣終了者が増大する一方、4月からの派遣開始者が伸び悩んでいる。営業・販売職あるいはコールセンター等の求人の動きは比較的良い。
悪くなっている	人材派遣会社 ( 社員 )	採用者数の動き	・ 4月に入っても求人、採用に動きが無い。企業が採用を控えている場合と、求人はしても条件が合わず動かない場合があるが、全体として雇用を増やそうという積極性が感じられない。
	人材派遣会社 ( 社員 )	求人数の動き	・ 建設会社及び関連業界が深刻な状況である。営業所閉鎖・人員削減などが進み、長年利用している派遣先で契約終了が相次いでいる。
	民間職業紹介機関 ( 支店長 )	求人数の動き	・ 3月末で契約終了した人材の後任要請が、前年4月時点の約半分である。景気の足踏み状態を懸念し、企業の人材需要は極めて低い。